

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 (平成28年度第3回)

日時：平成28年11月25日（金）午前10時40分～正午
場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

1 開 会

○総合司会（障がい福祉課 岡村）

みなさん、おはようございます。それでは定刻になりましたので、ただ今から、「手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議」の平成28年度第3回目の会議を開催します。本日はお忙しいところ、本会議に御出席くださりありがとうございます。私は、本日の進行を務めます、鳥取県障がい福祉課の岡村です。どうぞよろしくお願いいたします。

それではまず、開会にあたりまして、本会議の委員長であります、鳥取県福祉保健部長の藪田から、皆様にご挨拶を申しあげる予定だったのですが、今日から始まった県議会が延びている関係で、部長がまだこちらに来ていません。また、部長が来ましたら、改めてご挨拶を差しあげたいと存じます。

次に、委員の皆様の御紹介ですが、本来でしたら、本日御出席いただいております皆様全員を御紹介させていただくところですが、時間の都合もありますので、誠に恐縮ですが、お手元の出席者名簿をもって、皆様の御紹介に代えさせていただきます。その出席者名募の中で、鳥取県教育委員会事務局教育次長の寺谷委員も議会の対応中ですので、部長同様不在となっておりますが、議会終了後、こちらにお越しいただく予定となっております。それから、今日、県外より筑波技術大学の教授でいらっしゃいます大杉委員様、全日本ろうあ連盟で青年部長を務めておられます廣田委員様にお越しいただきました。遠方よりお越ささりありがとうございます。

最後に、大会運営のパートナーであるエム&エムドットコーさんに、今回も会議にオブザーバー参加していただいています。今日はよろしくお願いいたします。

それでは、これから議事に進みたいと思いますが、その前に発言される際のお願いをさせていただきます。御発言いただく際には、まず手を挙げていただき、お名前を述べていただいた後、ゆっくりお話しくださいますようご協力をお願いいたします。

2 議 事

○総合司会（障がい福祉課 岡村）

これより、議事に入らせていただきます。本来ですと、ここから先は、実行委員会設置運営要綱に基づきまして、委員長の藪田が議長として進行するところではございますが、まだ来ておりませんので、障がい福祉課長の小林が代って進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 報告事項

[資料1]

○小林課長（障がい福祉課課長）

障がい福祉課の小林といいます。どうぞよろしく申し上げます。藪田部長がこちらに参りますまで、代って進行させていただきます。

それでは早速ですが、まず、報告事項について説明させていただきます。お手元の「資料1」をご覧ください。「第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果」について、事務局から説明をお願いします。

○明場（実行委員会事務局長） 説明（資料1）

おはようございます。障がい福祉課の明場でございます。資料1をご覧くださいと思います。座って説明させていただきます。「第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果」についてということでございます。手話パフォーマンス甲子園につきましては、皆様には企画の段階からご参加いただきまして、当日の運営も含めまして、非常にお世話になりました。ありがとうございます。この場を借りてお礼申しあげます。だいたいの概要につきましては、そこに記載のとおり、9月25日に倉吉未来中心で開催したというところでございます。来場者数は全体で二千人ということでございました。出場チームにつきましては、予選参加申し込みのあった61チーム、30都道府県から申し込みがありました。出場したのはそのうちの20チーム21校ということでございます。本県からも4チームが出場しました。同時に開催しました催しものとしまして、鳥取聾学校の作品展とか、手話パフォーマンス甲子園の紹介コーナーとかといったものも2階の会場のかかりでやってたということでございます。そして合わせましてサテライト会場ということで、1階のアトリウムに300席を準備したところでございます。

裏にいていただきまして、優勝チームが熊本聾学校ということで、準優勝が沖縄県立真和志高校で、3位が奈良県立聾学校ということになっています。なお、この大会におきましては、佳子内親王殿下にご臨席をたまわったということでございます。『大会を通じて聴覚に障がいのある方々の大切な言語である手話に対する理解が一層深まるとともに、素晴らしい思い出となることを願います。』というお言葉をいただいたところでございます。なお、佳子内親王殿下におかれましては、大会の前日の交流会にもご臨席賜って高校生とご歓談いただいたところでございます。

第4回大会ですが、今回の開催につきまして、いろいろ皆さんのほうから、関係団体出場チーム等からも意見をいただきましたので、また後で説明させていただきますが、そういった点につきましてはまた次回大会の開催計画に反映させていただきたいと考えております。

5番目のその他ということでございます。前日に交流会という形で鳥取短期大学のほうで開催し、300人が参加したということでございます。合わせて大会当日は、ユーチューブでのライブ中継も行ったところでございます。そのほか倉吉駅には、おもてなしブースを設けて大会のPRとかを行ったというふうなこともございます。以上が大会の概要でございます。

続きまして次の資料ですが、全国高校生手話パフォーマンス甲子園審査結果一覧ということで付けております。内容については特に説明まではいたしません、熊本聾学校が優勝ということです。なお、この資料は非公開ということで取り扱いに注意いただければ

と思います。続きまして第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園審査員評ということでございます。この資料につきましても非公開ということになっていきますので、取り扱いにはご注意ください。それぞれの審査員さんの評ということで書いています。これについても特に説明まではいたしません。参考までに付けているというところがございます。

続きまして第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園アンケート結果ということでございます。来場者の方、引率者の方、生徒の方とそれぞれアンケートを取っております。それにつきまして説明させていただきます。まず、1頁でございますが、来場者の方からのアンケートでございます。女性が71%、年齢につきましては40～60代の方が24%、職業につきましては会社員とか、あとは主婦の方が20%近くでございます。県内の方が54.5%、県外の方が45.5%と可成り県外の方が多く来ていただいています。5番目ですが、この大会をなにで知ったかということでございますが、団体・サークルの紹介とか、チラシ・ポスターが多かったというところがございます。

2頁のほうに参りまして、感想でございますが、「とても良かった」が全体の7割近くです。「来ていただいたきっかけ」ということだと、やはり「手話に興味があった。高校生の演技が見たかった」というようなことが見られています。前回(第2回)大会を見たという方が30%ぐらいで、来年もぜひ見に来たいという方が60%ぐらいおられます。それから、ゲストパフォーマーが良かったというのが3割程度ということで、ご意見としては字幕がなかったのがほしかった。それだと説明がないと分からないから伝わらないというようにございまして、ゲストの背景も含めての説明がちょっと不十分だったのかなというところがございます。続きまして、高校生パフォーマンスのアンケート結果ということで、来場者の方からのご意見を自由に記載いただいたところがございます。とくに改善点のほうは、サテライト会場のモニターが全然見えなかったとか、警備がやりすぎだった、ご飯が食べやすいとより良いとか、お昼の休憩時間をもう少し延ばしてほしい、声の通訳や字幕の遅れ・漏れが多かったのが困ったとか、あと特別なタレントをもう一名ぐらい、という要望もあったみたいです。それから、審査についても難しいことは分かるんだけど、もう少し客観的な基準にならないかとか、パフォーマンスについても種別で部門別にしてもいいんじゃないかというようにご意見もいただいております。あとは20チーム以外の41チームにも日を合わせているという意味で予選会をコンパクトにまとめて短時間にするというようにも考えてはどうかというように、ホールと2階との階段が大変だったとか、昼食探しに苦労したので店の情報が欲しかったというようにご意見もいただいております。5頁にいきますと、ちょっとクーラーがきつかったというようにもございます。こういったいろいろなご意見をいただいておりますので、次に生かしていきたいと考えております。6頁は引率者の方のアンケートでございます。感想としては「とても良かった」というのが16人で一番多かったということですが、改善点のご意見もいただいております。インタビューが事前に話をしていただけとちょっと違って戸惑っていたとか、バスの運営についてもちょっとなかなか厳しいなというようにご意見もいただいております。また審査基準についてもよく分からないというようにご意見もいただいております。それから、大会に参加したきっかけということでは、学校が生徒に提案したというのが13名で、先生の力というのが大きいかなということで、今後学校にPRしていく中で、先生という存在というのをもう少し意識することかなと感じております。8頁で「来年も大会に参加したいですか?」ということには13校の方が参加したいということでございます。「あまり参加したくない」というのも3

名もあるんですけども、とくに指導される引率者の方はなかなか大変で厳しいということも書いてございました。まあ、生徒さんのやる気次第ということも大きいのだとは思いますが、そういった形でご意見いただいているところがございます。交流会のことでございますが、もっと生徒が交流できる企画があるといいのかなということ。それから、立食形式はいいんだけど足の悪い生徒もいるので少し椅子スペースもほしいというようなところですね。時間がちょっと長かったかなという意見もありました。

9頁です。予選参加申し込みから大会にお越しいただくまでの実行委員会の対応についてということで、ご意見をいただいております。丁寧にしていただいたというのもいただいております。締め切りまでの時間が短くて大変だったとか、いろいろその辺はあったようです。大会中のスタッフの対応についてですけども、指示内容とかにばらつきがあったとか、たらい回しにもあったというようなご意見もいただいております。現場対応はなかなかうまくいかないところはあると思うんですけども、そういった部分でのご意見をいただいております。それから、大会の知名度を高めるために効果的なお考えをお聞かせくださいということで、いろいろなアイデアをいただいております。ペットボトルにシールを貼るとか、動画を発信するとか、小中学校にも提示すると進学のとくに頑張ろうとかいうようなご意見をいただいております。続きまして11頁でございます。率直な感想ということでいただいております。高校生の出入りの制限はいいんですけども、関係者まで出入りの制限があるのはちょっと負担だというようなこともご意見をいただいております。鳥取二十世紀梨記念館（なしっこ館）が早く閉まったのがちょっと残念でしたというようなこともございました。12頁の生徒の方からのアンケートは、大会に参加してとても良かったというのが85%、成果が発揮できたというのが81%ということで、練習自体は毎日されるというのが半数ぐらいで、しかも3時間から4時間程度とかなり練習しておられるというのがございます。来年も参加してみたいですかということで、4分の3の方が参加したい、来年もしてほしいと願っているということでございます。めくっていただきまして、印象に残っているチームということでございました。14頁は、この大会を良くするためのアイデアとか、改善点があればということでございます。やはりちょっと立食パーティーが長かったとか、参加賞がほしかったとか、会場で結果を知りたい、練習時間がもっとほしかった。それから15頁にいきまして、インタビュー時間をもう少し長くしてほしいというような意見をいただいているところがございます。16頁でございますが、やはりもっと手話を勉強して支援できるまでに上達したいというような思いを持っていただいている方がいる、全員参加でやりたいという高校もあれば、二校で合同チームで参加してみたいとかいうご報告もいただいております。17頁、立ち位置等も検討したいとか、18頁も同じく感想等をいただいております。以上、アンケート結果について報告いたしました。以上でございます。

〔藪田福祉保健部長挨拶〕

皆さん、おはようございます。本日から11月定例県議会が開始したものですから、少し遅れまして大変申しわけございませんでした。甲子園も今年度、皆様には年度当初からいろいろとご意見いただき、また甲子園の当日でもスタッフとして関わっていただきまして、皆さんと一体となって開催できたのではないかなと思います。また、全国に向けての厚いメッセージが発せられたのではないかなと思っております。今年度で一応県内一巡したということになりますが、場所も変わればやはり中身も変わって参りますので、毎回毎

回初めての気持ちで取り組んで参りました。ただやはり外枠といたしますか、ハードが変わっても、変わらないものがあつたなと思っております。それは、やはり鳥取県らしい人の絆が非常に強く結ばれたのではないかと思います。もう一カ月過ぎましたが先月10月21日に、中部を中心とした地震が起こったわけですが、その際にも、甲子園に出場した若者たちから多くの励ましのメッセージが寄せられました。やはり、これは3年続けて参りましたが、こうした絆が強く結ばれた鳥取県だからこそその力なのかなと思っております。これはぜひ、来年度以降も質を高めながら続けていきたいと思っておりますので、ぜひ今日は反省点も多くあろうと思っております。引き続き、また次へ向けての大きなステップを組みあげたいと思っておりますので、今日はよろしく審議の程お願いいたします。

○藪田（福祉保健部長）

では、今報告させていただきましたけれども、ただいまの説明に対しまして、ご質問ご意見ございませんでしょうか。

○国広（委員）

一点目の質問です。資料1の裏面ですが、「5 その他」（5）のタブレットを配置したと書いてあります。これの活用状況というのはどうだったでしょう。

○明場（実行委員会事務局長）

会場には手話通訳者の方もおられたということで、利用がなかったというのが正直なところでございます。

○藪田（福祉保健部長）

他にございますか。

○国広（委員）

では、二つ目です。アンケート結果についてです。1頁で、回答者121名となっておりますが、二千人の来場者があつて121人というのは少し少ないのではないかと思います。アンケートの呼びかけを積極的に行つてこの数字だったのか、あるいはあまり積極的に行われなかったのか、どうなのかを知りたいと思っております。質問は以上です。

○藪田（福祉保健部長）

アンケートについて、呼びかけがどうだったかということですね。

○事務局（障がい福祉課 安永）

会場の中でも放送で案内させていただきましたし、出口のところでも、ぜひお願いします、ということで声かけさせていただいたのですが、実は、昨年より少し回収数は落ちています。その要因の一つとして、書くものがなかったことがあるのではないかと。例えば、鉛筆をアンケート用紙と一緒に入れておけば、ホール内で書いていただいてそれを出していただくということが出来たのかなあというのもあるので、それは是非、来年に向けて改善していきたいなと思っております。

○藪田（福祉保健部長）

残念ながら書くものがなかったということですので、来年以降は考えたいと思います。ありがとうございました。その他よろしいでしょうか。

○山内（委員）

来場者のアンケート結果で一つお聞きしたいことがあります。4頁になりますけども、アンケートの自由記載欄で書かれたと思うのですが、ここに特定の方の名指しになっている状態で、改善点が上がっていますね。これはひどいですね。具体的に個人名が上がっていますので、県としてはアンケート結果をご本人方に提示されるのか、それとも、これはこの内々資料でとどめるのかということをお聞きしたいのですが。

○藪田（福祉保健部長）

ありがとうございます。たしかに個人名が出ておりますね。アンケート結果の取り扱いについてはどうなっていますか。

○明場（実行委員会事務局長）

あくまでも参考程度ということで、けっしてこれを（公開して）どうというところまでは考えておりません。ただまあ、こういった意見ですので、何らかの形で今後の参考にしたいというふうに考えております。

○藪田（福祉保健部長）

来年の参考に向けてということですが、たしかに注意点としては何らかの形で、お知らせする必要があるかもしれません。ただもともと、個人的にどうこうという目的ではございませんので、少し考えてみたいと思います。その他ございませんでしょうか。

○大杉（委員）

皆さんおはようございます。アンケートの回答を見ますと、皆様からいろいろなご意見をいただいていると思います。特に、出場生徒の皆さんからの意見を見まして大変参考になりました。参加した高校生は本当に楽しく参加できたことが分かりましたので、ほっとしております。また他の高校との交流、とくに聾の生徒がいる高校との交流が非常にいい機会となったということについて、これは共生社会の実現のあり方の理念にも結びつくものではないかと思っております。ですから、この大会の運営側の一人として更にかっこたるしっかりとした運営を目指して、いいところはそのまま、変えなければいけないところは改善していくというふうに考えております。

たとえば、審査方法について確認したいことがあります。合計の点数が同じであった場合、審査員の協議の上で順位を決めるということがありますけれども、今回は、規定どおりに行われたということによろしいのですよね。

○明場（実行委員会事務局長）

規定どおり、要綱に基いて、同点の場合に審査員の協議によって決めるということによっております。

○大杉（委員）

分かりました。それは大切なところだと思いますが、審査員の協議において、何かの要因、たとえば聾学校だから・・・というようなことがあっては審査員に負担をお掛けしてしまいます。来年度に向けてもう少し整理をしていくべきではないかと思います。以上です。

○廣田（委員）

今回の良かった内容について、ちょっと気になる部分がありまして、クイズラリーみたいなものをしたと思いますが、その反応というか結果について載っていないので教えていただきたいということと、今回大杉さんと一緒にフリーという立場で、当日会場を回りました。あらためて感動しましたのが、大会のOB・OGの方も来られていまして、実際に生徒に「頑張れ」と励ましの言葉を掛けたといった場面が幾つか見られました。出演者の立場として、とても元気付けられたのではないかと思います。そういう意味では、自由に話すことができるスペースの確保も大切かなあと思いました。そして3点目、来年度またお願いしたいと思うのですが、会場のレイアウト、交流会のレイアウトもそうなのですが、交流会の場合はテーブルです。ホールはOBの方たちと話せるような。毎年会場が変わりますので、私も何が良かったか記憶がちょっと曖昧になります。例えば、交流会の場合ですと今年が今までで一番広い会場だったと思います。でも、ステージが低く過ぎたかなと思います。そういった部分も反省点として残しておいていただきたいと思います。

○明場（実行委員会事務局長）

最初のクイズラリーのことをごさいます。参加者はそんなに多くはなかったのかなというご意見でしたが、総合受付で抽選引換券を交換した人が151名でした。ただ一般来場者席が900席強だったということであれば、それなりにはいたのかなというふうには感じております。二点目ですけれども、OB・OGの方が多くて、ロビー、ホールのスペースの確保ということ、これにつきましては、これからそういった方の参加も増えていくことを考えてみますと、ロビー・スペースの確保に配慮するように考えていきたいと思います。三番目の点につきましては、交流会のテーブルのレイアウトですとか、だいたいのレイアウトを報告書に載せてほしいということでしたが、これについては次回以降、検討させていただきます。

○藪田（福祉保健部長）

レイアウトについては、今回報告書に載せるということで、させていただきますと思います。そのほか、ありませんでしょうか。

○戸羽（委員）

今回初めて、委員として参加させていただきました。準備の面では、M&Mさんと一緒になって、今回非常にいい形で準備ができたと思います。感想と言いますと、昨年と比べると非常に良くなったと感じます。また手話通訳者、要約筆記者に対する配慮、去年までは、あまり良くなかったと聞いております。今年はとても丁寧に対応いただきました。通訳者も要約筆記者も、それぞれが全力を尽くすことができたかなと思います。そういう意味で、M&Mさんのご協力に対し、感謝申し上げます。大杉委員も言われまし

たが、参加高校生のアンケートを見ると、鳥取県に来てよかった、というような感想が多かったように思います。実行委員としてすごくいいことだなと思います。

あと二つ質問があります。一つ目が、審査結果、熊本聾学校が優勝ということですが、マイナス10点になったその経緯についてご説明をいただきたい。もう一つは、サテライト会場についてスクリーンが見えなくなったのが前日分かったのか、想定できなかったのか、その辺りの経緯もご説明をお願いします。

○藪田（福祉保健部長）

2点ご質問がありました。まず、熊本聾学校のマイナス10点についてと、スクリーンが見えにくかったのは想定できなかったのか、この2点お願いします。

○事務局（障がい福祉課 安永）

熊本聾学校さんの減点につきましては、審査基準に基づいて字幕の表示が不十分だったということで、審査員の方にご判断いただいて、マイナス10点とさせていただきました。また、2位・3位は同じ順位でもいいのではないかと話も協議の中ではあったんですけども、ここはルール通り、どっちがいいかということで協議の中で検討していただいた結果、今回は真和志高校さんの方が奈良ろう学校さんよりも上回ったということで準優勝とさせていただきました。講評につきましては、庄崎審査員長のほうにご協力をお願いして、審査員長コメントとして大会ホームページやSNSで周知させていただいて、とくに参加高校生への納得性や説明責任を果たすという観点でご協力をいただいて、講評を掲載させていただいた次第です。スクリーンの話は、専門的な話になるのでM&Mさんのほうでお願いします。

○M&M（オブザーバー）

失礼します。M&Mの本山と申します。サテライト会場のスクリーンについてですが、今回使用したスクリーンが12,000ルーメンというかなり輝度の高いプロジェクターを使用しています。この12,000ルーメンのプロジェクターを採用した経緯なんですけども、倉吉未来中心の同じ会場の場所で10,000ルーメンのプロジェクターで映したという実績がございました。それよりちょっと輝度の高い12,000ルーメンを使用したというのが経緯になります。ただ、現実的には太陽のかなり強い場所になりますので、その日の天候によって映らない可能性はあるということは、認識はできてはいたのですが、その日がかなり良い天気でかなり天候に恵まれて光のほう画面の中に差し込んでしまってほぼ見えないう状態になってしまったというのが、実際の経緯でございます。合わせて60インチのモニターを急遽3台追加させていただきまして、見えるようにしたという経緯でございます。以上です。

○藪田（福祉保健部長）

よろしいでしょうか。

○戸羽（委員）

戸羽です。確認ですけども、見えなかったということは、今回想定外ということですか？

○M&M（オブザーバー）

想定はしております、そのために3台モニターのほうは用意はしていたというところではございます。天候が雨・曇りだったりとか、そういった条件を整えば12,000ルーメンで見たという実績はもちろんございますので、今回はただちょっと天気が良かったということだと思います。

○藪田（福祉保健部長）

もう一度確認したいのですが、同点の場合の審査ですけども、これは毎回審査員の皆様が、その都度決められることなんでしょうか。審査基準というものは。

○明場（実行委員会事務局長）

審査基準の中で、同点の場合については委員の協議により決めるという規定に基づいてやっています。

○藪田（福祉保健部長）

その審査基準というのは、事務局が定めた基準ですか。

○明場（実行委員会事務局長）

そうですね。事務局サイドで案を作り、前回の会議で委員の皆様にご提示して、策定したものです。

○藪田（福祉保健部長）

なるほど、前回の会議で提示していただいた審査基準ということですね。じゃあ、来年度も提示いただいて、この場で協議するということになるんですね。

○明場（実行委員会事務局長）

そうですね。

○藪田（福祉保健部長）

では、来年度に向けても、この場で審査基準を皆様と一緒に協議させていただくということになりますので、またその際に来年度につきましては協議をお願いしたいと思います。その他、ございませんでしょうか。

○寺谷（委員）

アンケートの中にも、いくつも出てくることですけども、予選を勝ち抜いて出たチームや選手の皆さんに、できたら参加賞を差し上げることができたらいいなというふうに思いました。大会そのものは非常に感動的で素晴らしいものだったと思いますし、大会に参加してきた子どもたちはたくさん練習もしたでしょうし、そういうようなことに参加賞という形で報いてあげたらいいなというように強く思いました。ご検討をよろしく願います。それから来年はどういうふうになるのか分かりませんが、3地区の持ち回りになるのかも含めて、たとえば先程のモニターの件でも同じ会場でやれば次の年にはより具体的に改善しやすいのではないかなあと思ったもので、そうすると今回反省の中で出ているいろんなことを一個ずつぶしていくといいますか、そういうふうなことができ

ると同じ会場でやるということのメリットになることが出てくるのではないかなというふうに思います。持ち回りでやることの意義、それから一つの会場でやることの意義、いろいろとメリット・デメリットがあるのかもしれませんが、反省を次の大会に生かすという意味でいうと、会場の運営であるとか、設営であるということがやりやすいのかなと思うので、その辺もまた検討の材料にさせていただけたらなというふうに思います。冒頭にも申しあげましたように、非常に感動的で素晴らしい大会にさせていただいたなあというふうに思います。皆さんに感謝を申しあげたいと思います。ありがとうございました。

○藪田（福祉保健部長）

まず、参加賞を出せたらいいのではないかというご意見がございました。これにつきましては検討させていただくという形にしたいと思います。たしかに私も見てまして、そこに至るまでの会場にたどりつくまでの生徒の皆さんの努力とか熱意というのは、本当に素晴らしいものがありますので、それを報いるほどの参加賞にできるかどうか分かりませんが、記念品みたいな形で手元残るものがあるのかなと思いますので、ぜひ検討したいと思います。それから持ち回りの件でございますが、事務局からお願いします。

○明場（実行委員会事務局長）

今現在、参加賞という形ではないんですけども、記念品という形で今年度に関してはフォトスタンドという砂でできたものを全員にプレゼントしているということではございません。参加賞という形態ということで言えば、これをどうするかという話にはなろうかと思えますけれども、一応現状としてはそういう形を出しているというところでございます。それから、持ち回りの件ですけども、今年倉吉ということで、来年度につきましては最初に行いました鳥取市での開催の方向で検討しております。会場の規模が始めた当初に比べかなり大きな大会になってきているということもございます。従いまして、前回鳥取でやったところと同じ場所というよりはむしろ、大きいところという形になろうかと思えますので、そういった面で前回の反省点で改善すべきところは考慮する形で考えています。

○藪田（福祉保健部長）

今の話は、鳥取でやる場合の会場の問題でございます。ご質問の、この甲子園自体をどうするかということもあると思いますので、それは皆様にご協議していただくのもいいのかなと思います。たぶん横に長い鳥取県ということで、だいたい皆さんよく参加していただきたいという気持ちがある場合が持ち回りということになるのですが、一番最初に甲子園が始まったときに、それ程今みたいな多くの参加者を想定し得なかったのか、あるいはなかなか遅く決まったために場所が取れなかったとか、そういう理由もあったかと思えます。ただやっぱり寺谷委員のご指摘もありましたので、少しその辺りも皆様と話し合いさせていただいたらどうかなと思います。この点につきましてはよろしいでしょうか。では、時間の関係もありますので次に進ませていただいてもいいでしょうか。また最後に皆様から総合的にお話を伺いたいと思います。

4 協議事項

〔資料2〕第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園への御意見、御感想について

○藪田（福祉保健部長）

続きまして、協議事項に移ります。お手元の「資料2」をご覧ください。「第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園への御意見、御感想」について、事務局から説明をお願いします。

○明場（実行委員会事務局長）

障がい福祉課の明場です。資料2のほうでございます。今回のご意見、委員の皆様からご意見・ご感想をいただいております。良かった点につきましては、下のとおりでございますが、大会全般につきましては、お成りもありましたし、参加者にとっても特別な会になったというようなご意見。来場者につきましては空席が把握できてよかったのではないかと。今回大きな会場でしたので良かった。演技につきましては、表彰式の際に参加者全員が舞台に立ったことで大変良かった、パフォーマンスのレベルが上がって感動した。施設設備につきましては、大型のスクリーンで鮮明な映像が視聴できて、情報視聴が十分機能できた。2頁目でございます。運営等につきましては、計画・準備の段階から業者とのコミュニケーションができ、業者が聾者の視点を大切にいただいていることもいただいております。参加高校生につきましては参加校同士が交流して仲良くなってそれはそれで良かったかなというご意見をいただいております。

続きまして3頁の改善すべき点、工夫が必要だった点ということでございます。クイズラリーのことが先程出ましたけれども、そういったこともございますし、ちょっとハートフル席の空席が多かったかなというご意見もいただいております。サテライト会場につきましては、先程ご意見があったとおり、天気が良くてスクリーンがもう一つよく見えなかったというところもございます。あと手荷物検査につきましては、エスカレーターの上り口で行っていたということもございまして、上のほうで列が出来たりして危険だったというようなこともご意見としていただいております。総合受付につきましては、受付で手話を見ることができる範囲は限られているので、ホワイトボードでの準備もあったほうがいいというご意見もいただいております。展示関係は場所が2階だったということもあって、場所が分かりにくかったのかなというご意見もいただいております。案内板とか目印を設置したらどうかというご意見をいただいております。4頁でございます。司会、ゲストにつきましては、審査員について若い人を入れるべきではないかという意見。ボランティアについては交代もなく、1日中立ったままであった、休憩もあまり取れなかったというような意見。ライブ配信につきましては、手話のサイズが小さすぎて何をしているのか見えなかった。リハーサルについては、ちょっと時間が短かった。交流会についてはモニターを増やしたらどうか、舞台が低いということもあったし、全員起立だったのでなかなか見えなかったというようなご意見をいただいております。6頁でございます。やはり年々出場校がレベルアップしていることもございますし、運営設営のほうも回数を重ねるごとにうまくなっている。委員の皆様においては今回役割を与えてもらってよかったというご意見もいただいております。以上で説明を終わります。

○藪田（福祉保健部長）

ありがとうございます。加えて、これはというご意見ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○田中（委員）

大会では、大変お疲れさまでした。ありがとうございます。3回目ですので、年々いろんな部分で良くなっていて、とても感動的な大会になったと思うのですが、毎年県サ連のほうと全通研のほうで手話スタッフとしてお手伝いさせてもらっているんですね。それで少しでも早く情報がほしいということを毎年言わせていただいているのですが、やはりどうしても最後の最後になってしまって、スタッフの確保がなかなか難しい状況でのお願いという形になったと思います。反省にもありましたように、少しでも早くスタッフの確保ができれば、十分に休憩が取れるような態勢も整えられるのではないかなあと思いますので、最初の計画の段階から、通訳者としてどういう位置に何人ぐらい入るのか、それ以外のスタッフがどれぐらい要るのか、通訳ができなくても手話が分からなくてもいいスタッフがなんぐらい要るのかというのは、もっともっと早い段階で教えていただけるとありがたいなあと思っています。

○藪田（福祉保健部長）

今のご意見は、年度当初の会でもいただいておりましたので、なるべく早くという気持ちでは臨んでいたのですが、まだ遅かったということでございますので、だいたいどれぐらい前ぐらいにお知らせしたら間に合うようになるのでしょうか。

○田中（委員）

2カ月から3カ月くらい前、来場者に案内をするのと同様ぐらいにはある程度の想定をさせていただきたいなあと思っています。

○藪田（福祉保健部長）

ありがとうございます。幸いといたしますが、東・中・西一巡しましたので、今後会場についてはまたご議論いただきますが、来年度どの会場になっても、たぶん会場の中身とか想定できる範囲で動けるとお思いますので、おっしゃるとおり2・3カ月ぐらい前にはお知らせできるような計画を立ててみたいと思います。努力します。そのほかいかがでしょうか。

○国広（委員）

どのときに言えばいいか分からなかったのですが、意見として述べたいと思います。開会式の手話通訳者の服装についてです。1回目、2回目はきちっとスーツを着用していたような気がするのですが、3回目はとてもラフな服装で開会式の式典通訳が行われ、私はちょっと違和感を覚えました。違和感というのが、舞台上の皆さんはきちんとしてらっしゃるのに、開会式という式典で手話通訳者だけがああいうラフな服装でいいのかなあというふうに思いました。実際に演技が始まればあの服装でもいいと思いますが、違和感を覚えたのはきっと私一人ではなかったと思います。来賓の方々がお見えになっていて、開会式という大変緊張した荘厳な中で行われている中で、ちょっとラフすぎたかなあと思いました。意見ですので、これに対してどうこうというお答は不要ですが、来年度はその場に合わせた服装をとということを、やはり通訳者側も考えたほうがいいのかと思いました。以上です。

○藪田（福祉保健部長）

ありがとうございました。たぶん、手話通訳者の服装について、今回あらためて何かお願いするようなことはしてなかったということだと思います。たしかに、私も県外で手話通訳がいらっしゃる場面に何回か出席しましたが、式典みたいなどころではスーツを着ておられましたね。今回もお成りもあったということですので、少し来年度はこの辺はきちんと周知といいますか、お知らせをしたいと思います。その他いかがでしょうか。

○森原（委員）

4頁の一番上に、託児所について託児の条件が明示されていないため、断られたケースがあったというように書いてあるんですけども、私は第2回の企画推進会議のときに、チラシを見ても託児の条件とかが分かりにくいので、分かるようにしてください、というふうにお願いしたと思うんです。そのときに、検討します、というふうに答えていただきました。どのような検討をされて、こういうアンケートの結果が出ているのか、もしもなにもされていないかったんだったら来年度はちょっとその辺りをはっきり分かるように明示していただきたいと思います。

○藪田（福祉保健部長）

ありがとうございます。託児に関しては、いかがだったでしょうか。

○明場（実行委員会事務局長）

ケースがあったということですが、とりあえずこの件に関して事実関係をちょっと確認させていただきましたが、詳細はちょっと分からなかったというところでございます。障がいの有無だとか、年齢による託児所の利用制限は設けてなかったということでございます。この件につきましてはそうです。検討につきましては、基本的に希望があれば受け入れていただくというように臨んでいたというところではございますけれども。

○M&M（オブザーバー）

託児のほうは5名程度で、受け入れる段階で、聞こえるとか聞こえないとかいうところは、確認はそこまでちょっと記載していませんので。

○藪田（福祉保健部長）

でも、アンケートを見ると現実には、ことわったのか、あるいは言い方の問題だったかも分かりませんが、あったようでございますので、いずれにしても相手方に誤解を招くような対応はしないということで、来年度以降検討させていただきたいと思ひますし、それから早目にこういった情報は発信をして参りたいと思ひます。

○大杉（委員）

事前に資料を読んで気づいたことがあります。一つ目は、ゲストアトラクションをしていただいた「岐阜ろう劇団いぶき」の狂言は、非常に良かったのですが、情報保障について課題が載っていると思ひます。もし事前に私のほうで様子が分かれば、それに対して委員としての考え方、情報保障をどうするかという面、それを協議したりメールでやり取りをしたりということができたと思ひます。その辺りが、つまり事前にそうした情報を把握できてなかったということで、対応できなかったというところが次の開催に向

けての課題になると思います。二つ目が、委員の皆様の意見ということで資料に載っていますけれども、私のほうはぜひ、業者・M&Mさんからの立場から業者としての振り返りはどうだったのかというご意見をいただきたいと思います。もし、なにかこういうことで困ったとか、事務局には伝えてあったのかもしれませんが、私の立場としては、業者の立場からの振り返り・反省をいろんなご意見を含めて、この委員会で出していただいて、委員全員で協議して課題を解決して次へつなげていきたいと思っています。LEDのパネルについても、非常にあれは良かったと思いますが、逆に大変だったであろうと想定できます。準備の面でどうだったのか、時間・お金もかかったと思います。様々な課題もあると思います。それを委員会として共有していきたい。この素晴らしいスクリーンをそのままずっと、こういった形、予算も準備も大変な中で、続けていけるのかどうかも含めて、どうしていくのかということも含めてちょっと検討したいと思いますので、ご報告いただけますでしょうか。

○藪田（福祉保健部長）

ありがとうございます。今回、岐阜ろう劇団いぶきのオリジナルなアトラクションでございまして、私の周りに座っていらっしゃる方々もなかなかいい演技だけれども、中身がよく理解できなかつたという声も聞かれたところでございます。たしかに事前になにか情報があれば、少し手立てがあったかもしれませんが、そこは次年度以降の課題として捉えさせていただきます。それでは、せっかくご意見もございましたので、M&Mさんの振り返りも含めてお願いいたします。

○M&M（オブザーバー）

業者の私のほうから、振り返りという形で一言述べさせてやってください。まず、聾者の視点に立つということ今回一番大きなコンセプトにして参りました。いま大杉委員のほうからいろいろアドバイスをいただきまして、まず計画を作っていました。そして戸羽委員とかと連携を取りながら準備のほうを進めていきまして、1回目2回目というのは業者だけの感覚でどんどんやっていたという形だったと思うんですけども、3回目というのは、この委員の中で皆さんと一緒にやっていったのかなという形に、まず率直な感想としては思っております。ですので、まず聾者の視点に立った運営というのは私どもはやってるつもりではあったんですけども、実際いろんな指摘をいただきながら、やっていった良かった点ではなかったかと思っております。改善点のほうはいろいろでございまして、一番難しいなと考えていたところが、岐阜ろう劇団いぶきさんの件なんですけども、いぶきさんがなぜあんな形になってしまったのかというところが、なかなかコミュニケーションというのがうまくできなかったということが、これはいぶきさんに関してもそうですし、そのほかの団体に関しても感じているところでございます。いぶきさんのほうに関してはヒヤリングシートというもので、舞台の内容を分かるようにしてほしいという形で伝えていたんですけども、台本が出てきたのが当日の朝、手話通訳も含めてお渡しをしたという形の経緯でございまして、舞台をつくる進行側の人間にとっても、始まるまでどんな舞台なのかというのがほとんど理解ができなかったというところで、事前にそういったアナウンスとかを含めて、ちょっとできなかったかと思っております。今回皆さんと一緒に考えてくれたのが良かったかなと思っております。

○藪田（福祉保健部長）

ありがとうございます。いかがでしょうか、ご意見を聞かれまして。いま総括としてご報告いただきました。

○国広（委員）

入場方法と手荷物検査の件です。この意見を見ますと、手荷物検査というのは2階だけしかなかった。一般来場者しかなかったというふうに書いてあります。ハートフル席入口は1階です。ハートフル席は開場予定時間より早く案内をされて、館内のハートフル席の入場口の側で待ってもらった状態でしたが、なぜ早くハートフル席だけ入るように指示されたのでしょうか。というのは、入場者は建物の外に割と早い時間から並んでおられました。ハートフル席の方だけ、そこから振り分けができたのか、決められた開場時間よりか早く入れられたのはどうしてだったのか、その辺が他のスタッフの方々に伝わっていたのか、ハートフル席の入口が非常に混乱をしていたということと、手荷物検査はどうしてなかったのかということをお聞きしたいと思います。

○藪田（福祉保健部長）

では、手荷物検査と、ハートフル席の開場の関係について、お願いします。

○M&M（オブザーバー）

まず、ハートフル席の入口が混乱したというご指摘です。その要因としては、ハートフル席の入り口が1階の上手の1階部分にハートフル席を設けておりました。ハートフル席の定義としては、年寄りの方、体の不自由な方という形で振り分けのほうはやっていただいていたところですが、ハートフル席のほうがちよっと先に人が入ってしまったというところなんですけれども、これがお成りの報道で入り口部分開口していたのですが、そこを報道の方が入っておられるのを間違えて、勝手にどンドンスタッフも含めて入っていいものという認識で、ハートフル席のほうへ入っていったという形で報告は受けております。ですから、次年度以降は改善する必要があるかなと考えております。手荷物検査はハートフル席のほうも行っておりましたが、金属探知機のほうは行っていなかったという形でございます。

○藪田（福祉保健部長）

金属探知機は2階にあったということですか。

○M&M（オブザーバー）

はい、そうです。

○藪田（福祉保健部長）

では手荷物検査は入られる方は全員やっていた。たぶんお成りの関係もあって、2階に金属探知機があったという関係だと思いますし、ハートフル席の関係は、それ以外にも出入りについて観客の方の戸が開いていたら、入ったり出たりしてもいいものだというような見方があった部分も、他にもありましたので、これは来年度の課題として捉えたいと思います。時間も押して参りましたので、次にいかせていただきたいと思います。

5 その他

[資料3] 今後の日程について

[資料4] 手話パフォーマンス甲子園応援自動販売機の設置について

[資料5] 予算の執行状況について

○藪田（福祉保健部長）

それでは、「その他」の報告に移ります。（1）から（3）まで、合わせて事務局お願いいたします。

○明場（実行委員会事務局長）

資料3でございます。今後の日程につきまして、報告させていただきます。今日は11月25日でございます。1月下旬から2月上旬にかけて、実行委員会の総会を開催いたします。ここで、大会の開催だとかを決定いたします。それを受けまして2月の下旬に第4回の企画推進会議ということでございまして、ここで開催要綱とか実施要領を議論していただくという形になります。裏側にいっていただきまして、今後のスケジュールということでございます。1月2月はそのとおりでございまして、5月に参加申し込みの受付を開始し、7月に締め切り。あと例年と同じような形になりますが、8月に予選審査会、9月10月で大会という形で進める予定にしております。

続きまして、資料4でございますけれども、「手話パフォーマンス甲子園応援自動販売機の設置」ということでございます。これは今のところ鳥取市文化センターのほうで設置したんですけれども、2号機を10月31日に設置、3号機については来週設置ということで、場所のほうは2号機は境港市の保健相談センター、3号機が米子市の旗ヶ崎にあります聴覚者障害者協会ということでございます。この自動販売機につきましては、売り上げの一部が大会資金になるという形になりますので、これにつきましてはぜひ皆様のほうでPRのほうをしていただけるとありがたいと思います。

続きまして資料5のほうでございます。「甲子園実行委員会の予算の執行状況について」でございます。収入につきましては、日本財団からの助成金が3100万、鳥取県の負担金が1300万ということで、全体で4700万ということでございます。支出のほうにつきましては運営費が69万、広報宣伝費が450万で、大会開催費として1300万、業者への運営委託費として2800万ということで、全体で4700万ということになっております。以上でございます。

○藪田（福祉保健部長）

ありがとうございます。年明けに実行委員会の総会があり、2月下旬に推進会議で、来年度の大会の開催要領とか予選審査の実施要領ということでございますので、今日ご議論いただきました参加賞のこととか、同点の場合どうするか、また会場が3地区持ち回りになるのかという辺りが見えてくるということでございますので、その辺りまた皆さんと共にしっかりと協議を進めて参りたいと思います。また事前にご意見等あれば、事前に検証回答させていただく場合もあるかもしれません。ということでよろしく願いいたします。今の説明に対しまして、なにかご質問はございますでしょうか。

○戸羽（委員）

来年度、第4回高校生手話パフォーマンス甲子園の日程についてなんですけれども、私ども協会としてのちょっとご意見をさせていただきます。希望については、10月8日、第2希望が10月1日、あとの日程はちょっと都合が、もう既に難しいという状況になっております。どちらかで調整して、第1希望が10月8日ということで第2希望を言いました。それでなんとかお願いできないでしょうか。その日程の理由がございまして、10月8日というのは、二つ提案させていただきましたが、10月7・8・9は3連休であるということ、高校生の皆さんも参加しやすい日程ではないかということをおもいます。二つ目は10月8日と言いますと、鳥取県手話言語条例が制定された日であります。ですので、高校生のパフォーマンス、この大会を開催するとほんとに意義深い日になるとおもいます。この二つを理由として、第1希望第2希望を提案させていただきます。

○藪田（福祉保健部長）

ご意見ありがとうございます。そうですね。10月8日、ほんとに記念すべき素晴らしい日ですので、この日にできたらいいかなとおもいますが、いろいろと調整をさせていただきますので、私どもの気持ちとしてもそうなんですけれども、なるべくそういった方向でできるような形に図らせていただきたいと思います。これも調整の結果でございますので、ご意見は伺いました。ありがとうございます。そのほかでございますでしょうか。

○依藤（委員）

すみません。最後になって。さっきの会場の件ですけれども、ひとこと言わせてください。県内の高校生が参加するという視点で見たときに、やはり、聾学校とか、高等学校でも福祉に関する学科やコースのある学校に限られておりますので、いろいろな学校の生徒が参加するとか、見に行くということが望ましいと思うので、会場はもう一周りぐらい東・中・西でやっていただくとありがたい。それから、アンケートの中にもありましたけれども、もうちょっと高校生が主体的に関わっては、という話がありました。ボランティアの生徒が参加するにしても、やはり東・中・西のほうが、参加しやすいということ、また、大会の普及発展を図るという上で、3会場それぞれ持ち回っていただけたらという希望がございましたのでお伝えしておきます。よろしくお願ひします。

○藪田（福祉保健部長）

ありがとうございます。そうですね、会場としては様々なご意見があるとおもいますので、また委員の皆様にもアンケートでも取らせていただきたいと思います。そのときには、よろしくお願ひいたします。そのほか、いかがでしょうか。

○三王寺（委員）

会場については、さきほど依藤校長先生のほうからおっしゃっていただきましたが、開催日時につきまして、学校行事等が、もう既に例年、10月ごろに学校祭というようなものがたくさん組まれております。参加していただく高校生の行事等の絡みも、今後検討の理由ではないかなあというふうに感じましたので、ひとこと意見として述べさせていただきます。

○藪田（福祉保健部長）

そうですね。学校行事、早くから決まってしまうので、分かりました。配慮させていただきます。そのほか、いかがでしょうか。はい、それでは少し時間が過ぎて参りましたが、全体をとおして、もしも、これだけはこののがございましたら。

○明場（実行委員会事務局長）

すみません。事務局です。簡単に説明させていただきますと、資料のほうを三つばかり付けております。一つ目が資料提供と書いてあります、手話パフォーマンス参加校による中部地震への支援ということでいただいています。内訳としまして、石川県の田鶴浜高校のほうから義援金3万円をいただいたという話でございます。そして2点目としまして、東京都の中央ろう学校のほうから「頑張れ倉吉」というタイトルで応援メッセージをいただいたというところでございます。次に2点目ですけれども、全国高校生手話パフォーマンス甲子園という1枚もののチラシを付けております。これにつきましては、こういうことをやってますよというPR用でございますので、ぜひとも皆様方におかれまして、それぞれ機会を捉えてPRしていただけたらと思います。3点目ですけれども、手話パフォーマンス甲子園実績報告書というのを付けております。これについては現在作成中ということでございます。参考までにお付けしておりますのでまたご覧になっていただければと思います。以上です。

○藪田（福祉保健部長）

それでは、最後の最後ですが、いかがでしょうか。では、さきほど申しましたように、あらためまして必要事項は委員の皆様にお知らせしたいと思ひますし、アンケート等させていただく場合もあるかと思ひます。そのときにはどうぞよろしくお願ひいたします。

○司会（障がい福祉課 岡村）

ありがとうございました。皆様、大変お疲れさまでございました。ちょっと時間過ぎてしまいましたけれども、以上をもちまして、平成28年度第3回の手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議を閉会させていただきます。本日はお忙しいなか、お集まりいただきまして、どうもありがとうございました。お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。